

# 環境会計

コーセーグループは企業の社会的責任を果たす活動の一環として、1997年より環境基本方針と環境行動指針を定めて具体的な活動を実施しています。このような活動の目安として、今年度も『環境会計ガイドライン2007』を踏まえて、コーセーグループの環境会計を実施しました。

## 環境保全コスト

2009年度は群馬事業所のボイラーのガス化により公害防止コストがアップしました。また、生分解原料を採用した商品の増加により、研究開発コストもアップしました。しかし、リサイクル率のアップや環境保全活動の積み重ねにより、資産循環コスト、環境改善対策コストが減少しました。投資面では空調機の更新、省エネ型照明設備への切り替えなどが主なものです。

### — 環境保全コストの参考データ

投資に関しては環境に配慮した省エネ対応設備の採用に重点を置きました。費用面では廃棄物等の発生抑制や適正処理、資源の循環的利用の推進、ボイラーの天然ガス化等に積極的に取り組んでいます。

## 環境保全効果

2009年度はペラ能書添付をやめて、化粧箱に直接能書を記載する商品のアイテム数を拡大させたことにより約5,000万円の費用節減効果がありました。これは紙12t分にあたり、360本の木の伐採を防ぐことができたこととなります。また、群馬事業所がボイラーの燃料を天然ガスに転換したため、全体としてCO<sub>2</sub>排出量を前年実績の1割超を削減することができました。

### — 環境保全効果の参考データ

生産資源消費量は市場状況による生産量や気候や社会状況など様々な要因により変動します。そのため、総消費量と原単位消費量の双方から環境保全効果を分析しています。

環境保全コスト

(単位:万円)

| 分類           | 主な取り組みの内容              | 2009   |        | 2008   |        | 2007   |        |
|--------------|------------------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
|              |                        | 投資額    | 費用額    | 投資額    | 費用額    | 投資額    | 費用額    |
| 1. 事業エリア     |                        |        |        |        |        |        |        |
| ①公害防止コスト     | 大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、騒音、悪臭防止 | 3,278  | 18,487 | 10,752 | 16,871 | 19,316 | 18,052 |
| ②地球環境保全コスト   | 温暖化防止、オゾン層破壊防止         | 2,101  | 2,725  | 0      | 2,984  | 652    | 3,384  |
| ③資産循環コスト     | 節水、資源の効率利用、産業廃棄物処理費用   | 1,129  | 13,476 | 212    | 16,851 | 1,227  | 14,237 |
| 2. 上・下流コスト   | グリーン購入、容器包装等のリサイクル負担金等 | 553    | 13,189 | 0      | 14,016 | 0      | 26,641 |
| 3. 管理活動コスト   | 環境教育・委員会、ISO関連、環境負荷測定等 | 0      | 3,053  | 0      | 3,528  | 0      | 2,958  |
| 4. 研究開発コスト   | 環境配慮製品の開発              | 0      | 8,621  | 0      | 7,020  | 0      | 9,267  |
| 5. 社会活動コスト   | 環境改善対策、環境情報の公表         | 4,243  | 4,118  | 4,190  | 6,131  | 2,018  | 5,668  |
| 6. 環境損傷対応コスト |                        | 0      | 0      | 0      | 479    | 0      | 479    |
| 合計           |                        | 11,304 | 63,668 | 15,154 | 67,880 | 23,213 | 80,686 |

\*投資額は集計期間に取得した償却資産を計上しています。\*減価償却費は財務会計上の耐用年数及び償却方法で計上しています。\*複合コストは環境保全に関わる部分について差額及び按分集計しています。

環境保全効果

| 環境保全効果                            |                                | 前年度実績<br>(基準期)         | 今年度実績<br>(比較期)         | 2009<br>保全効果            | 2008<br>保全効果            | 2007<br>保全効果 |
|-----------------------------------|--------------------------------|------------------------|------------------------|-------------------------|-------------------------|--------------|
| 事業活動に投入する<br>資源に関する環境保全効果         | エネルギー消費量の減少(電力)                | 14,758,000KW           | 14,717,153KW           | 40,847KW                | -285,621KW              | 10,071KW     |
|                                   | エネルギー消費量の減少(重油)                | 332,500L               | 310,750L               | 21,750L                 | 5,335L                  | 8,256L       |
|                                   | エネルギー消費量の減少(灯油)                | 474,600L               | 349,536L               | 125,064L                | 446,190L                | -44,090L     |
|                                   | エネルギー消費量の減少(天然ガス)              | 376,399Nm <sup>3</sup> | 490,514Nm <sup>3</sup> | -114,115Nm <sup>3</sup> | -376,399Nm <sup>3</sup> | —            |
| 事業活動から排出する環境負荷<br>及び廃棄物に関する環境保全効果 | 環境負荷物質排出量の減少(CO <sub>2</sub> ) | 9,138.8t               | 8,150.2t               | 988.6t                  | -605.9t                 | -83.6t       |
|                                   | 廃棄物等排出の減少                      | 3,016.0t               | 3,053.7t               | -37.7t                  | 327.7t                  | -22.2t       |
| 環境保全対策に伴う経済効果(実質的効果)              |                                |                        |                        |                         |                         |              |
| 費用の削減                             | 省エネルギー、省資源による費用節減              | —                      | —                      | 6,883万円                 | 9,222万円                 | 4,133万円      |
|                                   | 資源再利用による廃棄処理費の節減               | —                      | —                      | 3,792万円                 | 3,125万円                 | 5,174万円      |

環境保全コストの参考データ

(単位:万円)

| 環境保全コスト(環境保全対策分野に応じた分類) |                         | 主な取り組みの内容     | 投資額    | 費用額    |
|-------------------------|-------------------------|---------------|--------|--------|
| 分類                      | ①地球温暖化対策に関するコスト         | 温水冷却水の循環式採用   | 0      | 2,183  |
|                         | ②オゾン層保護対策に関するコスト        | 空調設備更新        | 2,101  | 152    |
|                         | ③大気環境保全に関するコスト          | ボイラーのガス化      | 736    | 7,549  |
|                         | ④騒音・振動対策に関するコスト         | 省電力エアコンプレッサー  | 0      | 950    |
|                         | ⑤水環境・土壌環境・地盤環境保全に関するコスト | 排水処理場         | 1,149  | 9,906  |
|                         | ⑥廃棄物・リサイクル対策に関するコスト     | リサイクル負担金      | 1,129  | 25,933 |
|                         | ⑦化学物質対策に関するコスト          | 生分解原料の採用      | 0      | 8,621  |
|                         | ⑧自然環境保全に関するコスト          | 環境に配慮した建物設備補修 | 4,243  | 4,118  |
|                         | ⑨その他コスト                 | 管理運営コスト他      | 1,946  | 4,257  |
| 合計                      |                         |               | 11,304 | 63,668 |

生産拠点における生産量推移

(単位:1千ダース)

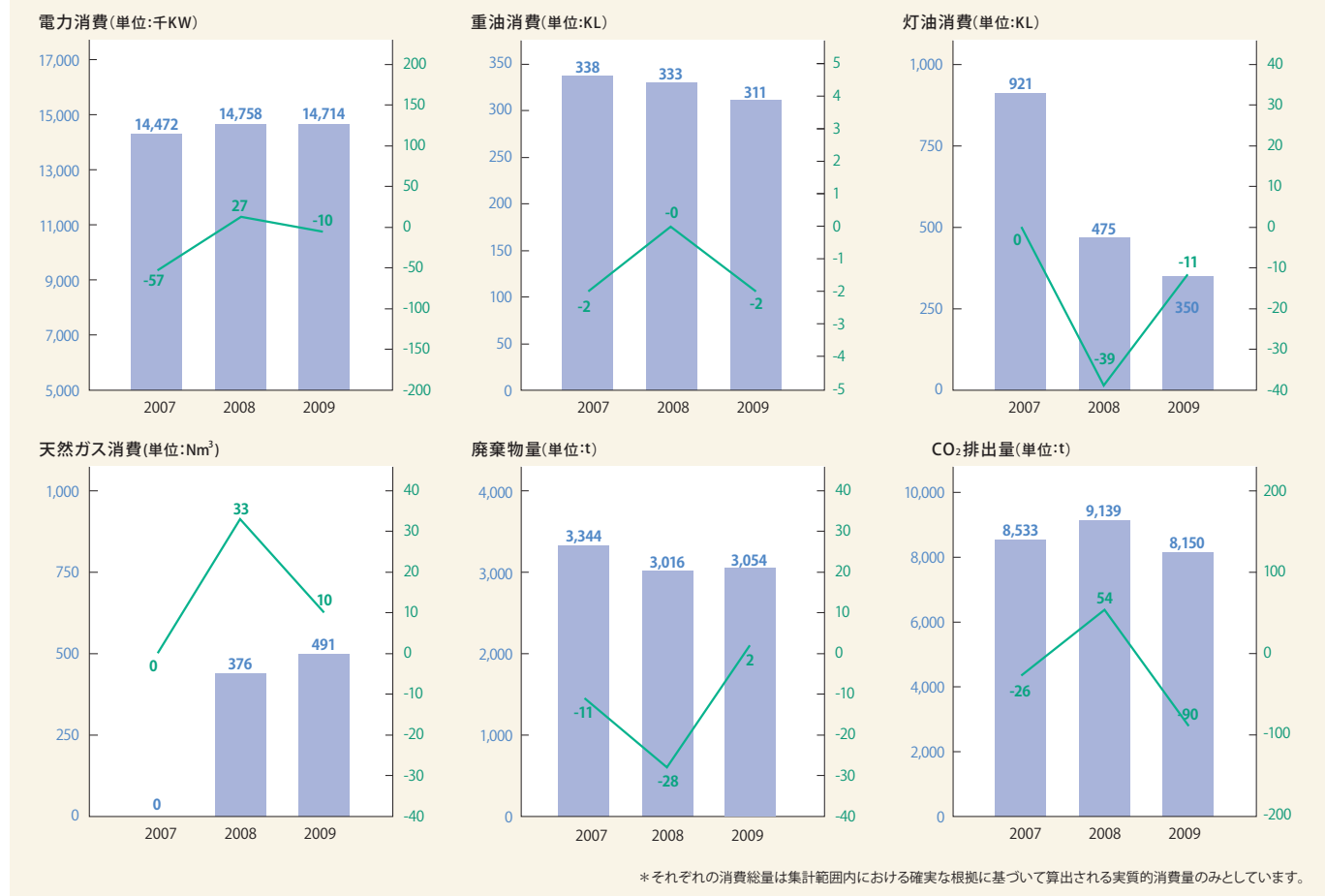
| 項目         | 2009   | 前年比    | 2008   | 2007   |
|------------|--------|--------|--------|--------|
| コーセー狭山事業所  | 1,647  | 100.7% | 1,636  | 1,714  |
| コーセー群馬事業所  | 8,323  | 100.9% | 8,248  | 8,136  |
| アルビオン熊谷事業所 | 1,538  | 97.9%  | 1,571  | 1,623  |
| 合計         | 11,508 | 100.5% | 11,455 | 11,473 |

\*外注加工による生産量は含めていません。

環境保全効果の参考データ

実総消費量・原単位換算環境保全効果の推移

(注)各表の棒グラフは総消費量(左目盛)、折れ線グラフは原単位あたりの環境保全効果(右目盛)を表します。



<2009年度の集計について>

環境会計については、グループ経営の観点から株式会社コーセーのほか生産を行っている国内の関係会社も集計範囲に含めています。

|      |  |
|------|--|
| 集計期間 | 2009年度(2009/4~2010/3)                            |
| 集計範囲 | 株式会社コーセー、主要関係会社(株式会社アルビオン、インターコスメ株式会社、株式会社アドバンス) |
| 集計基準 | 『環境会計ガイドライン2005年度版』及び『環境報告書ガイドライン2007年度版』に準拠     |

## 編集方針

コーセーグループでは、環境保全に対する取り組みとその成果を「環境報告書」として2000年より発行してきました。しかし、2005年からは、当社グループを取り巻くステークホルダーの皆さまとの共生を企業経営の重大な課題としてとらえ、CSR (Corporate Social Responsibility) に関する企業活動の内容も報告の一部に加えていますが、本年もこの考え方にそって「社会・環境報告書 2010」としてまとめました。

なお、本報告書のデータ収集や編集にあたっては、環境省の発行した「環境報告書ガイドライン 2007年度版」、「環境会計ガイドライン 2005年度版」、およびGRIの「サステナビリティレポートガイドライン Ver.3.0」を参考にしています。

## 対象範囲

### 【対象期間】

実績データについては2009年度(2009年4月1日～2010年3月31日)ですが、一部の項目については過去の推移も併記しました。また、活動内容については、2009年度の内容を中心としましたが、それ以前から継続中のもの、および2010年4月以降のものも一部掲載しました。

### 【対象組織】

環境保全活動については、株式会社コーセーと生産設備を持つ主要関係会社4社の活動内容やデータを記載しました。社会性についての活動内容は、株式会社コーセーと全ての関係会社の活動から記載しました。

### 【次号の発行予定】

2011年10月を予定しています。なお、皆さまの声を生かした報告書にしていきたいと考えております。

ご意見等ございましたら

**株式会社コーセー 地球環境委員会**  
(FAX 03-3281-5901)

までお送りくださいますようお願い申し上げます。



K O S É  
株式会社 コーセー

東京都中央区日本橋3-6-2 〒103-8251

TEL.03-3273-1511 (代表)

<http://www.kose.co.jp>



この印刷物に使用している用紙は、森を元気にするための間伐と間伐材の有効活用に役立ちます。